

《最優秀賞》

見えない仮想水に支えられている命

突然だが、私の家の洗濯機が先日壊れた。水道から洗濯機へ給水ができなくなり、毎日風呂の残り水を使わなければならない。その残り水をホースで吸い上げる大きな音が聞こえてなかなか眠りにつけない。そんな毎日が続いている中で私は「水」について考えるようになった。今でもその大きな給水音を毎日聞きながら、「私にとって水とは」と考える日々が続いている。

話は変わるが、あなたはマクドナルドに行ったことがあるだろうか。友達と話をしに、あるいは自分へのちよつとしたご褒美として注文できる商品は様々だ。ダブルチーズバーガー、マックフライポテト、コカ・コーラなど決められない程たくさんある。やつと決めることができたメニューを前に、多くの人が「いただきます」と手を合わせるだろう。では、あなたはこの目の前の一食分を作るために、一体どれほどの「水」が使われているか、考えたことがあるだろうか。

私がそんなことを考えるようになったのは、洗濯機が壊れて水について考えるようになっていた時に、駅のポスターに載っていた「仮想水」という言葉が目に入ったことがきっかけだ。仮想水とは、私たちが食べ物消費する時、その生産過程で使われた膨大な水のことである。例えば、牛肉一キログラムを生産するのに約二万リットルもの水が必要という。

では、ダブルチーズバーガーセットの仮想水はどのくらいなのか。実際に計算してみると、その数字は想像をはるかに上回るものだった。まずダブルチーズバーガーの二枚のビーフパティを作るには牛を育てなければならぬ。牛の飲料だけでなく、牛のエサとなる大量の穀物を育てるための水が必要だ。その結果、このハンバーガー一つに隠れている水は、約三千リットルにも及ぶ。家庭用の浴槽が二百リットルとすれば、十五杯分もの水がこのバーガー一つに凝縮されていることになる。サイ

大阪教育大学附属池田中学校 1年

原 陽太 はら ようた

ドメニューのマックフライポテトも見てみよう。原料のジャガイモや植物油の生産にも水が使われ、Lサイズ一つで約二百五十リットル。コカ・コーラも原料の砂糖を育てる工程を含めると、一杯で数十リットルを消費していることになる。バーガー、ポテト、コーラを合わせた一セットで、仮想水はおよそ三千五百リットル以上。なんと一回の食事で、二リットルのペットボトル千七百五十本分もの「見えない水」を飲みこんでいるのだ。

このことを知り、私の水に対する考えが一変した。蛇口を捻れば安い水が出る日本に住んでいると、水不足は遠い他の国の問題のように感じてしまう。だが、マクドナルドの食材の多くは外国産だ。日本は食べ物を海外から輸入しているのも、相手国の貴重な水を代わりに消費していることになる。つまり、もし他の国で深刻な水不足が起きれば、私たちの食卓にも影響が出る。だから水問題は決して他人事などではない。

では、私たちにできることは何だろうか。仮想水の視点を持てば、私たちがすべきことは目の前の食べ物最後の一口まで大切にし、食べ物を残さないことである。食べ残しを出すということは、その生産に使われた何千リットルもの水を捨てるのと同じことだ。食べ物を簡単に捨ててしまうことは、世界のどこかで守り育てられた水を無駄にする行為と同じことになってしまう。その他にも、顔を洗ったり、手や食器を洗う時にこまめに水を止めるなどできることはたくさんあるはずだ。

世界の広大な土地、そして広大な世界から集まった見えない水。それらに支えられて、私たちの命があることを忘れてはならない。最後の一滴、最後の一口まで、世界の水と繋がっていることを忘れずにいたい。たくさん材料を育ててくれた水への感謝の気持ちも込めて、いただきます。